

レベル別の到達目標と領域別到達目標

	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
到達目標	①病院の理念を理解し、組織の一員として、助言を受けて行動できる ②正確な知識・技術を修得し、マニュアルに沿い助言を受けて、安全に看護を提供できる ③チームにおけるメンバーの役割を理解し、助言を受けて協働できる ④自己の課題を認識し、助言を受けて学習できる	①チーム目標達成に向け、自己目標をチーム目標に連動させ、目標達成に取り組める ②所属部署のルーチン業務を単独で実施できる ③チームにおける日々のリーダー的役割を認識し、協力を得て、遂行できる ④自己の課題を認識し、自主的に学習できる	①部署目標の達成に向け、自己目標をチーム目標に連動させ、目標達成に取り組める ②専門的な知識・技術を活用し、効果的かつ効率的な看護を提供できる ③チームリーダーの役割を果たし、チーム内で発生した問題を解決できる ④自己のキャリアを展望し、専門領域に関する学習に取り組める	①部署目標の達成に向け、チーム目標の達成を目指し、指導的にかかわることができる ②専門的な知識・技術を活用し、卓越した看護を提供できる ③複雑な状況を適切に判断し、自ら適切な行動をとることができ、かつ組織横断的に指導的役割をとることができる ④専門分野に関して知識を深めて、スタッフを指導できる	①病院組織の目標達成に向け、自己目標を連動させ、組織変革を推進できる ②専門領域における卓越した看護を提供でき、指導者を育成できる ③組織横断的にリーダーシップを発揮し、関連部門や地域との連携・調整・協働ができる ④指導者層の教育および育成計画を立案できる
領域別到達目標					
看護ケア実践能力	・基本的看護技術を修得し、助言を受けて、ベッドサイドケアを安全・確実に実践できる ・救急蘇生法の基本原理を理解し、指導のもとに実施できる ・受け持ち看護師の役割を理解し、助言を受けて受け持ちができる	・看護の基本的技術を修得し、エビデンスに基づいた効果的な看護を提供できる ・日常の看護、急変時の看護、臨終時の看護を自立して提供できる ・受け持ち患者のニーズに即した個別的な看護過程を展開できる	・系統的に情報を収集し、個別性や継続性に配慮した看護を実践でき、実施した看護を評価し・計画を修正できる ・日常の看護、急変時の看護、臨終時の看護を指導できる ・受け持ち患者の看護を通し、自己の看護観を深め、提供した看護を考察できる	・安全な医療・看護を提供するために、組織分析を行い、課題解決に向けた対策立案に貢献できる ・地域医療福祉との連携も考慮し、患者・家族の状況に応じた看護を提供できる ・患者の看護問題の解決のため、社会的資源の活用を計画できる	・個を尊重した看護の実践について、地域包括ケアを念頭に計画できる ・病院の理念に基づく、質を保証する医療・看護について提案できる ・提供している組織的看護の質を評価し、質の向上のための計画を立案し、実践できる
マネジメント能力	・安全管理・感染管理・防災管理の各マニュアルを理解し、基準に則して助言を受けて実践できる ・コスト意識をもち、診療報酬と処置等の関係を理解して行動できる ・看護実践における管理的側面を理解し、助言を受けて行動できる	・安全管理・感染管理・防災管理の各マニュアルを確実に実施し、患者・家族に説明できる ・コスト意識をもち、患者負担も考慮して、無駄な消費がないよう業務を遂行できる ・割り当てられた業務を、タイムリーに実践できる	・安全管理・感染管理・防災管理上の問題状況をチェックし、解決策を提案できる ・実践している医療・看護サービスの提供を診療報酬の観点で考えることができる ・目標達成のための効率性を考えたチーム運営ができる	・安全で質の高い看護を提供するために、部署の問題を明確にして、問題解決に取り組むことができる ・当該専門領域の医療・看護サービスについて、診療報酬に基づいて経済評価できる ・長期計画に基づき、具体的な活動を計画し、実践できる	・安全で質の高い看護を提供するために、組織上の問題を明確にし、業務改善に取り組むことができる ・関連部門の役割機能を理解し、院内はもとより、地域との医療・看護の連携を図ることができる ・将来展望を見据え、長期計画を立案し、確実に実践できる
教育・研究能力	・部署における特徴的な医療・看護に対する知識や技術を積極的に学習できる ・院内研修・院内研究発表会等に自ら参加できる	・不明な点は積極的に自己学習し、院内外の研修等に目標をもって参加できる ・院内研究発表会や関連学会等に積極的に参加し、内容を報告できる	・看護観を養い、研究的態度をもち日常的看護を実践できる ・問題意識をもち、学会発表等に参加できる ・看護研究活動に取り組み、組織における課題を見つけることができる	・部署において役割モデルとして教育的かかわりをとることができる ・院内外の研修や学会等に積極的に参加し、学習内容を部署内の看護実践に活用できる ・専門分野における研究に取り組み、学会発表を行い、スタッフに研究を指導できる	・看護職員の能力特性を把握し、臨床実践能力を育成するための計画を立案できる ・臨地学習や看護部教育体制を整備し、指導者層を育成できる ・看護研究に自ら取り組み、学会発表を進めると同時に、共同研究者としてスタッフを指導できる
人間関係力	・患者の人権を尊重した看護ケアを提供できる ・チームワークの重要性を認識し、助言を受けながら、良好な人間関係を築くことができる ・社会人としての責任・強調性を認識し、基本となるマナーを身につけ、行動できる	・看護の実践において倫理的視点をもって行動できる ・チームメンバーの立場や人間関係を尊重し、よい関係を築き、活動できる ・社会人としての責任・協調性をもち、健康を維持し、自律して行動できる	・看護の実践における倫理的問題に気づき、解決に向けて行動できる ・リーダーとして、目的達成に向けてチームを運営し、人間関係を調整できる ・社会人・組織人として、教養を身につけ、スタッフの模範となって行動できる	・患者－看護師－家族等に発生している倫理的ジレンマの解決に向けて行動できる ・多職種と協働するための良好な人間関係をつくり、効果的なチームを運営することができる ・院内はもとより、他施設や地域とのネットワークを広げ、活動することができる	・職場の各種問題解決に向け、互いを尊重しながら、合意形成できる職場風土を醸成できる ・ワーク・ライフ・バランスを実現し、看護職員の発達段階に応じた支援をするとともに、組織の成長のための活動ができる ・院内外にネットワークをもち、共通目的達成に向けての活動ができる